廿三

愷物篇 下

ヘ 5
2191
2

門へ利5
號 2191
巻 2

[illegible]

埋集下

富士三保清見に帆かけ船
さてゐるに雜の夕を讃まれ
横あまれ京や田なれ帆かけ船
測明の筑
如斗の茶持て柿の枝帰し
万年の遊り
青山鶴や一羽来てまれ鷲笑

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

相楼の画に

ゆく秋やまりの園を移れる

貞徳の像アリ

世にのこれ法金や道の初時日

新婚を賀して

手代も起く来て尾張の白紫を

白幣の画に

新そ出雲の風の同じく出幣

伝昌寺に於て

佛にそ縁折るもよし筆れ出

寒山筆れ給に

ちれ落葉掃はれ御ぬ筆ル

雪に鶯の画

鳥羽に久宝出 鶯や雪の中

笑アリ 雑子の絵

庫の妻もかりや 雑子を笑も立れ

蝦貝蝸なれ出たれ画に
鑄のなれ物を瀬干の大産に
雛れ根源なれ出たる画
濃くも雛を白ひ根源け
月に井の絵に立の白をとれて
月れ産を書きそれ出し行
橋に鍋蝸の絵り
かしかもりや月行人なりけれ

想法者は笠を思ひ鈎廊りの画
鈎あし　笠に入りも西のうち
左ノ方の絵
如け月しの望に志を述む定さし
山筒倒し旁の画に
帰るも居も絵むけ山の幕
西王母の画
こうなる筋なり一度雛れも桃の絵

小樵の家陣の画に

たまの山の樵と庭たく前の宿

夢に見れ居れ居れ絵

若さて蒙く蒙又寄し寄かつら

梅の絵に

見ゆ代の望人やはしむ其の兼

毒りて雪の画

きれの雪京に志られ此白ひおり

六祖の画

雁も何くふ法ゆく杖に着

獅子乗の絵

れハせん獅子に牡丹の十二朝

萩を出るれぬくろ戸に

ちなとりく

京城の秋おりに見れ奥座发

雛の稲束に、こまりに底画

栗ヲ作る懸ヲ弄鶏やあし栗
栗の妖されて画に
妖おやいかの尾より鶏のこれ
其ゝの絵ヲ
福ハ罠のおかげ時や年の暮
芦の絵に居て鶏の画ホ
おしの絵に友相色ゝ居一鶏
福録寿の笠持たれ絵に

笠細の毛ちゝ色を柳ゝ
柳に二ツの画に
動き飛象さく汁なく柳髪
流れり鶏の絵に
あしに此を鶏を脊の立ツ流れ
八十の賀
鶏く刻ハ年の暮飛や八十洲川
牛の川流れ画に

牛に先川渡ってませてや早迄
柳に鶴の画
鶴の尾も重れ立て柳小
寒山拾得の画
四ツの瞳ゆるし川をさまて新ら
末苔を下れ人に後ま
空く曲げ宣も床足の時る
福禄寿の縁

捲くもくもの屋ゆあてま鈍や吟む
・ゆるこ二川の絵・
二川ちまわ始れ加る載
梅にくもひ双鉄かけれ画
幸るにそこ云ひしりも出し梅の絵
半ゆる父の喪にあるを吊ふ
梅雨ちれそし知らし袖ゆも人にも
七十の賢に

此ころに何ヶ月ともしられ
先に維一翔の画
もしし衣を記しつゝ筆れ維ヶ有
書の画に
於も維や一もやし書の二例れ稀
万愚和尚斃庐を訪ふ世に
つとい親ある草の庵ほ何れ
浅まうれ事もあ世身を悲て

のくれ将ね暑ち忘れ店の蜉の声
蜻蛉の袖てみしに剣をおさる維
里もなき妻や先待川まさる手
蒲菊乃維
そのはみれ花もさうて蒲菊沁
中秋廿りと川葉の亭にて
草引し投うよ舩ヶ月の字
暁書て粋

滅れ友を流く分もおるを流りる
九月南日其餘事に拘れて
まゝ推し得の月又の後の月
前る二川の画
三人の家に七事や和ちまい
柳に蒸の画
ちらせ告おしかに柳に蒸れ
外のるを荷にしれ画

蒸家も　筍時や　一荷い
月ゆり　鮎の絵
明りの月を鮎の絵れ
象に雨の姉れ画
象の月や里婦より出れ
青華の画
松華や笠は忘つれて市へ出る
第に鮎鮓のてまりれ画

久佐の霜 先たく初中や終霧

天王奉納

たのもしや雲ちもたこふ出より

熱田奉納

藤屑ゆも交る和光や放生会

白山奉納

雲清し祈らぬ事ゆも久しの身

新婚を笑しく

お貴かまは雲や連理の草の枝

そこ祈に祈の画

枝かくしも明のそこ祈や吟し篤

先は父の喪を印ふ

老生まゝ神も祈の祈にかゝし

扇に是龍をのせて為給に

夕龍をのゝぬ志是の扇かれ

柳に蓮の画

かえれ時ちれ也柳に遊ぶ

山姫の画に

里芋の月又急ぐてや山笠り

橋に鶴の画

弁ぶ〻呉源寒しなく鶴

秋の夜も亮亭に折れて

まゝ市へ帯れてりまり秋茶

十一面観世音く生納

龍さいしかゝる佛の法ん汁

福源寿の賛

綿つゝの手に帰りさかるまゝ

芭蕉忌

御けゞ又けさ春の冬れ月

福源寿のまゝ海 破れ傘

よりおゝ海画

傘破れて上ても漏るや村時雨

山の絵に

海山の杉やいろはにかかけ紅

雪の山の此色

向ひ絵の綱も立ち雪の朝

竿の画

蓋は開き竿に入る杉の小ゆ

雪の杉に絵の絵

清世雪や此ゆ見る一枝

雪の山の此絵

雪に付き雅々交ひし桂小舟

冬の此書杉の画

ちらは本に寒に付き多し霜の朝

冬の始まりく所なりされ

無人に之をそ出す

十月の所や人のりされ

大坂の几峯より始く又通

又もさくまして又今世の交易
　傾城の門書の傍に揃もつて絵
枕に墨塗りまするや書の門
　柳行李の筆の絵
蝶の筆や柳にかられ出る別
　西に艘艦の西
旅に出る足れ一挺き京の中
　寧山すさるさ文庫の表り

初しぐれ又も寂しさ哀れしみと
　福羅斗の碇
よくし身物焼にあら七ゆく人
　慶の月切れ西
香多や花を折しつく石たく哉
たまし市中に捨て公場に
以りみ茶水流れ汁ハ活きと通
まれ花ありし此あてかしい気ハあれて

雛に以ぬ二月の宮や宮大 徒

福隆寺のあるまに傘の付れ

よりおるる画 濱

山そぬ川せおしり 樓の材降白

垣ゆに 猫の座る画

梅ふくるゝ 朝日あるの垣ゆ 北

巖の鞍を 黄りて 附て

ひしい 條 道の 向とさハかせれ

浦浜に 露の絵に 雜の句を 出れて

鶴の世や 四五ゆ 五ゆ 路の 波

陸ゆるに おそしく

陸つさに そハかや 以川を 出 寿

諒讓の 梅ゆに 衣を 刺す画

菊のをみれらし 其ゆ 秋の霜

梅に 蛾の絵

寒化しく 先ほ 時や 毒の 絵

茶布孫なりしかけて三月三日

七夜に出り給ひ八幡しく

七夜 祝ふりや 茶のら 茶也 餅

雄に 雛のこまりたる絵

雛のふむ 雄を音なし 秋の雪

測 明 箋に 菓なりけてゐる絵

箋りこ川をりまり 茶籠の秋の多

書に 秋の画

沖中時や 妻よふ 嫁も 乞し 婦り

秋の山 絵に 旅 信の 茶籠な

はらふ画

岩 椎の足にたけるふ 山 絵りな

玉川に 弱くおれ心を出されし画

川上やワまらぬ方に なく 鍾

業平 時志らぬ山の 親の心を

出たる画

見えたれや雪のあり　あまくきれ

三月廿二日後列の阿音に候也

綿ぬきも詩をて別れや旅の袖

松に臘梅の画讃

春雪やりの春の山かつも

枯木に鶏の画

木からしの絵ゆる鳥かれ

岩に木織の絵

秋風や岩にも木織かけてゐる

大黒の俵にかゝれて眺る画

よりおきいてゐるつみ俵かな

三鶴中一ツの老おを書く

見れ画

よみ初やおりまる龍も三の朝

餐下に拓かれく

又もまゝくゐる日を謹に答ゆる

西行柳陰の画賛

人々世に知れよりもせ柳小

鶴の目に月の画

葉や又ちれ月のこゝろ鶴

自在蓮を前の上れ画

和ひ和ひ嵐や牛の長鳴鳴

萌ゑ西川出る画

鶴ゑも付とまれ数や和前る

人の絆へ蓴菜をくるとも

う芽村や心もうり此蔵書し

産人の絵に

なれ物を借せ也そ無理そ嘘蛙

罵の詞多く絵に

大江山詞よふまや何年良

達磨の罵は抓出る画

付かむりの角に和ひし蔵棘

鶴の画に

惟光ゟ 黄ハ其所 姫ゝ 哉

蓮の画ニ

其ニ 鶴に 漏れて 知し 蓮の花

夏 木ニ に 月の絵

月の 松や 雨に 志れ 其木ニ 闇

雨に 牛の 庵て 飛る 絵

芳川 ニ 角や ワ ニ れ く 巾 扇ゟ

人の 進 若に

蓮に とまれ 世世ニ 蛙の 蓮の 果

宋 垣に 左ゟ くきれの 画

雨く 高ニ 各ニ 忘れ 春や 時ゟ

文 彦ニ

文 芸ニ ス ニ ゟ 増 其 海の 白ひ 小

鰹ゟ に 蔵の つ 見ゟ 画

去 きく 春や 前に 疲れ 鰹 姫し

風も有貴松蟻くわり軒の笠
蔭に蓑の画
かひ事に其折れ手わり出蔭
杉に三の絵
拵手の高く小さく柵なる
山故一婦が繋しく
又の絵を栗のこりもの色も味む
桑人十三四長

賢の婦の数く貴絵や松の風
灵四女義に諸のちから無絵
箏閑し義の儒もちれ柳
彼傘の画
芭蕉笠にあやかれ傘や軒の梁
結をこく持て家よしに
大黒の笠ゑれ画
川も其結の山乃曾に敵

笠の人の狐に所くおとり汁
柳に蝶の飛つく画
雲を餅に蝶飛る柳汁
浦岸の乗に乗る海絵
春明くまた笛おけぬ新年し
牛のる乃画
菱からの挽子の草花もあり
京笠を嵐の川く画

京笠ヤ洗くや嵐を乗る陰
今飛に杉の画
お当るにも桜を遥を三福の山
菱笠に鶴牛の絵
お立の笠にもおりくかるつかる
長柄の橋本は桜を分人の
ゆるは水の名にに
能周の絵のむ人や橋乃霜

藤の中に鍛の画

初の字を藤にまむ内の名所にも

不山翁を詠ひて

むりし法れ今つや老本にさらなる

七十の繁に

手弓いらそ弓を加へむ大根引

以陀袋にくるはたゞれく

月は雪の襟垢もりし以陀袋

藤の中に鍛の画

藤かくれて坂上の洞も遂ぬまし

な栖に初遊歌 松濤高に寄る

高かく菴 身は通ハせん根深け

波に、りの画

新しく法ひて波に初りかな

社頭に、祢宜の傘をかくけて

時ちを鍛れ画

子不振而もたれ間やもとくきれ

秋草の画に

うら折や蝉しに洗れたり生のあるメ

梅に四十雀の画

ゆしゆし梅中や春の四十から

蝙蝠の画に

かゝきかも斧ゝ備く鶴の家ゝ出れ

雨に鶴の木に出貴ゐれ画

蛙さく晴く作り 新や五月 雨

市袋の婦くろの上に立る分絵

木かしに後を咲せく思見りか

滝鶴の笠を並る流画

手に笠霜笠を時白の雨なから

石燈の鶴に木魚の画

木魚にすもさく借りや石燈の鶴

うに信手く大黒の雨なり

人家へ入画に

云ゝ竹も菊や添てし宝舟

草木にも月のある絵

見てまてや家に帰りて冬の月

福禄寿の手に亀を持たる画

亀の末万年かけて松の千代

某師奉納

境内の花春を根にして柳かな

秋葉山奉納

影に入るや祈れ秋葉山の神の為

深雪にいつも心を凡て

妹風の吹くに照る松や匂ふなる

云ゝ木の修

遊ひ火を消して参詣や帰る路

云ゝ雨に霧の画に

麦搗きて寝る夜の雲のころかな

古細師六人の像を書て雜
れ今なくなれたり
今に抗衆なれを近く世々の人
羽墨母の喪を吊し
なき海の絵用に実し貴夫蒲團
黒白の鼠れ遠く体出する画
白かまかく黒を御代れ鼠れ
布袋の絵に

山も梅も青を笑ひのつれ毎し
寿老人廉にもしまする画
貴々ない蔵あるも見ちや廉の角
孤丁の画
唐一羽略る川沢に入るより
梅に笑ふ出るに角に白を乗れて
捨ぬ扇をくちらぬ梅 峠ぬ名
絵扇に

世の人を輕ぜ排ふの義

抜きにおく新の画

遥いかの雲より定し給ひ

謝に各の画に

各位に手を倚られ生業城

第に新の画

訪ふの野や一本ちれおくし

白魚を得ることの人に

白魚の友待ちて雪もおの

万葉の画

万葉やまゝ都の書間の鼓舞

想学の此綱に来る事絵

他の来れ鯉にて絵なり横綱

山の画

出おくれ手おくれ冬の月

東波下結を香る所絵

外ニ書し下ニ結て新に時雨とも

万年の画

万年の鶴を舞しや 鶴の春

大きくの絵

福ひしに小さむ 大黒の 俵 加那

匡衡月に書なよむ絵

御さく 絵 神さくの手 宿の 月

領袖の香に無を添る絵

手かくも見ふやかりに神にかり

猿猴の盃なとの画

桜ちくも月出ちりけりさむ

桜ゆしに云の 近の画

みそ桜く隠り 弥の和尚し

瓜の画に

早に 信て 桜ゆり 足して瓜一ツ

芭蕉翁笠を携る画

白髪のつるに和し給

身に、かれ髪や寅見も裏草

石に、草の画

世石を硯にあらむ草の髪

梅に木鶏の画

木鶏の降りやあや有梅の閣

桐相始に起れ出吊

付の鶏は立ちむ うれ列れ

相如寒窓より消息を

降こるもしく来に

俗の安くりや親く 減ず八重庭

相刻も蔬を上ちのりに俗を

立ちて入ちぬりや 氏 鶏

東岡より也者書といふに

今をもれしく

也者松こ田にも髪のおろ手かり

抜れ出れ戸あり茶の山まとり
云に云ふ事人の絵
馬の目も道をかの四く抜れ出
寸数ふ一四月抜かれし
其を人の心に知れ美茶哉
牛ひ茶の画
岩の田からや茶は竹の茶も
七十の笠に

都にもの年に笠にてゐる
地蔵寺納
茶の集や茶の道をかへ
岩に牛の絵
されば岩に竹の鉢
三ヶ月に麻の絵
なく麻やらに繋く三カの月
化粧するもの思に

味漢歌僊

也有

物もふの声いとの甚れ暑れ

寝ー過シラ愧ツニ昼ー顔ニ六林

干麦ニ流ル流ル材ヲ可リ八

怪ニ思ヒ思ヒ知ルの鶏有

月未タレ離レニ高藪ヲ一

ウ

露何ソ染ンニ兀ー山ヲ一有

立テ場新ー酒薄シ林

入ー海出ー舩閑ナリ丶

[illegible]神へ投[illegible]ル[illegible]丶

[illegible]有

[illegible]丶

人ー目ハ密ー夫フノ關ー

[illegible]小袖林

二

[illegible]丶

嘯トツト嗤フ相ー撲ノ負丶

噫ト歎ス奉ー行ノ頓カタクナ有

可アタヲ惜ー花ニ無シ幕丶

[illegible]丶

薄ー霞孤ー雁暗ク林

古ー寺二ー王斑ナリ丶

[illegible]有

おいしの振の丈婦てもあし　有
拙帝の本ゟ遠一を皆遠ひ　丶
儒ー佛ー互ニ相訕ソレル　林
無合も流の小橋に罰の陸　丶
雨日経くれどんの三月りら　丶
了簡もなれ長風呂の立所　有
木ー賃ー泊リー人ト怪シヽシ　丶
月ハ者名ニ明ー石ニ　丶

ニウ
秋ナレヤ弓波タツ白ー菅スカニ　林
今流れ言を墨流のぬくし　丶
湯流に厩アキもせぬ二階絶　有
碁ー赤チ毎イツモノ時ニ聚ル　丶
鉦ー敲キ何レノ處ニ還ル　丶
垣のいふちれを雪かなを傳く　林
岸ノ柳水濕ー〻　丶

漢和六々韻

六林

男ー星　凡　厚ー鬢

月も漬ニ足ラ如キ川杖也有

[illegible]逆ーやとく粟稗の中分て丶

墜レラ錢ヲ無レ處レ求ルニ丶

馬ー離ラ騷カセニ問ー屋ヲ一林

ウ

鷺ー泊テ押スニ盧ー舟ヲ一丶

さハしき床しけ砂ら蔭のおゆし丶

[illegible]床せ[illegible]ゆとく[illegible]も逗留有

[illegible]名にも横を作らハ男さけ丶

[illegible]ゆ後をとり[illegible]む丶

冷ー飯　茶且ー澀シラシ林

[illegible]も大かた春戸の小休丶

雪ー空　閑ニ月ノ暈ヲ一丶

碑ハ道似タリニ人ノ喉ニ有
捧ハ為レ怖カニ追剥ニ、
盃ハ難シレ巡リニ座ー頭ニ、
幕ナルモ[illegible]ニ[illegible]花の面林
[illegible]山[illegible]、
二
出ー代リ漸ニ馴ナ染シム有
病ミー揚リ猶物ー憂シ、
温ー飩恥ニ切ー麥ニ、

太ー布妬ムニ纖ー紬ツムキヲニ林
[illegible]人[illegible]減[illegible]年の市、
[illegible]、
[illegible]有
[illegible]、
深ク案ス將ー棊ノ手林
[illegible]、
[illegible]、

二ウ

不化に本宮のう者を流ル、有

世相しを喫くかりてまゐるなり、

九條ハ京ノ片ノ陬スミ林

小ノ家請ノ酒薄シ、

長ノ局好ミノ飡ヒ優ユタカシ有

藪ノ入期ニ花ノ發タチ、

同二月に春も悠々林

漢和四九韻

六林

垣ノ瓠五ノ升願ヒ

月も霜けて冬近者ゆゑ、

鹿ノ聲迷ニ屐ノ齒ニ、

猫ノ望在ニ肴ノ籠ニ也有

雪見に居れる巨禅の事なるか、

るくやかしかく言れ僅(イエ)何(ナシ)、
持ー鎗 奚ソ失フレ鞘ヲ 林
並本の書に かくれ 夕虹、
捨ー子 啼(キ)ニ村ー雨ニ、
葺ー師 騒(ク)ニ落ー風ニ 有
寺ハー高シ 山ノ半ー腹、
月ハ小(ホソシ) 海ノ真ンー中、
書なるらのかれて家のむこうら 林

二

新しい 疲の見あれ 顔は、
厄ー年 憚(ヲノル)ニ十ー九ヲ、
新しの一そ生ぬ法圖 有
朝見に 次にも 無のこしろう、
書かりの見ひ 朝の不和上、
見しかまく 仮見海道を遅し 林
縄ー箔(スタレ) 表(アラハス)ニ貧ー窮ヲ、
言そ 顔かくも 平家の落こ用れ 有

魚蒸しに何の世ゝ物の一通有

旅ー高銀(カネ)ー設(モフケ)少ク丶

辻ー祭笛ー吹(キ)終(ル)林

[illegible]丶

[illegible]丶

[illegible]有

[illegible]丶

雪ノ裡ニ挑ー燈走(ル)丶

潮ノ時ニ檐(タ)桶(コ)忽(イソカハシ)林

ニウ

[illegible]丶

異ー見若(シ)言(モノイフカ)聾(ニ)有

耽(ラ)簟(ニ)疊(シ)身ー代(ヲ)丶

厭(ワヒテ)刀(ニ)罷(ム)奉ー公(ヲ)丶

野山花喚友林

廚(ヒハリ)の笛[illegible]の[illegible](コ)桐(ト)丶

同

鳥ノ目奈ニ名月ヲ　也滑、

捐も太くゝちわれきを枝　六林

行ク秋憐ニ驛ハタコヤ舍ニ、

或日樂ムニ山ニモヤシキ池ニ、

草外笛親シ耳ニ　有

道そ二節そちゃ綻、

盗人のゆにぬけりとぬそそと、

水きを絶いそ清八ら川時　林

陸荷備ニ牛馬ヲ、

鳥臺飾ルニ鶴亀ヲ、

媒ト誉ニ支度ノ速キヲ　有

使毀ニ返辞ノ遅キヲ、

葬も凋むを後ろ滅しやら、

夛さくをうきて雨の降り羅　林

只言れ申れ[illegible]辭　林
高ー笑　各　抱レ頤ヲ　丶
何奴ゥ[illegible]一そ　有
恨[illegible]の[illegible]吹　丶
二
餅ハ堅シ春ー雨ノ夕　林
[illegible]の生十二皮カハ　丶
此ノ子ハ婆ニ育チ　丶
彼アノ僧ハ嫁ニ持チ　有

小[illegible]か[illegible]　丶
一口[illegible]開け[illegible]上[illegible]　丶
入[illegible]　林
[illegible]山[illegible]　丶
弓ニ名アリ源ー頼ー政　丶
笠ニ識ル旅ノ宗ー祇　有
乗ー合　月　如シレ　登ノ　丶
西一[illegible]天の川も　移ハ　林

二ウ

新年の初 穂そなつれ 外家 林

砂 雜(マシル) 路ー 傍(ハタノ) 飴 有

主は 智 風にもまれて休むこ 丶

偶 招(ク)ニ 城ー 下ノ 醫(ヲ)ー 丶

對(レテ)レ 花 新ニ 設(ク)レ 席(ヲ) 林

拾を 案させ 取れりと 紅ル 丶

四七韻

也有

左ノ 蝶 猶 狂(フ)レ 菓ニ

秋の 水ふ 乃らかふ 盃 六林

月ノ 光 如(シ)ニ 蒔ー 繪(ノ)ー 丶

香ノ 燼(カラ) 遺(ル)ニ 寒ー 灰(ニ)ー 有

引 ふ 露次をのさけ 當れて 林

人 れ 盗まぬ そのもとも 梅 有

ウ

もふ所に日備し物ヲ大柳條　有

柝(ヒヤウシキ)觸レ二一時ヲ一來ル　林

吃ト守ル楠カ城ー郭　丶

よん紀念にして餅をこれ汁　有

藥ー師專賑スレ夜ヲ　丶

大ー黑毎ニ汚ルレ煤ニ　林

年を終くまでも豊の門屋安　丶

まりしおもくられるを媒　丶

二

瀬干に至さまを待ちなんと　有

失セ物向テレ他ニ猜(ウタカフ)　林

いかりさまも上げまれ乾を持(ウシロ)楮(タテ)　丶

大きれ屋をしこうを燭　有

被(ハ)レ覗(ノカ)初壻ー殿　丶

為(セル)レ振(フラ)御ヲ徒(カチ)魁(カシラ)　林

身のこれ日本橋の朝おしし　有

忘レタ乎燕未レ回ラ　丶

二ウ

[illegible]

垣も崩れて春戸を一枚 有

雪ハ似ラニ燒キ鹽ニ積リ 林

炙ハ憑テニ煎ニ豆ニ催ス 有

花ノ听ツラツテ知ルニ彼ノ岸ヲ、

漢和の事に拠て扶 篁カサ 林

久 [illegible] 無集 稿 [illegible]

浮字せん事 [illegible]

も [illegible] 辞書

に 撫 [illegible] 云 [illegible] 編

[illegible] 集 [illegible] 其師 [illegible] 雨色の

年に [illegible]

[illegible] 詠 [illegible]

書林

京都寺町二条下ル
搦屋治兵衛
尾州名古屋本町
風月堂孫助
江戸日本橋
[illegible]

明治三十二年三月購求